



必ず勝利判決を！原告団 頑張ってます



成田では、全社員の皆さんにチラシを配り職場の問題等を知らせてています



成田のJALのオペレーションセンターの出入り口で、社員向けに週に2～3回原告団が中心となって、チラシを配布しています。原告の問題を知らせるだけでなく、職場の問題も取り上げ、何とか解決しようと、原告も取り組んでいます。1枚のチラシが職場の人たちとの媒体となっています。



<フライトお疲れ様でした>



フライト帰りに署名をしてくれる乗
員の方

チラシ配りを始めた頃、頑なに受け取ろうしなかった地上職の方が受け取ったり、最初私を無視し素通りしていた先任客室乗務員の方も、今では当たり前のようにチラシを受け取ってくれます。これからも職場の思いと良心を活字にして社員に届けたいです。
(一年間チラシを配って来た原告)

羽田空港のターミナルや有楽町のJALプラザ前でも、宣伝と署名の訴え



署名とともに、励ましのお手
紙をいただきました。



先日JALの便に乗りました。悪天候で非常に揺れましたが、機内はとても整備されており綺麗でした。客室乗務員が揺れの中、機内サービス等笑顔で対応しているところをみて、「大変な思いをして働いているのだろうな」と思う一方、いまだに職場に戻っていない人もいると思うと何だか切ない気持ちになりました。解雇撤回運動続けて下さい。旭川からも応援しています。

原告団の活動財政を支えるため、 どこでも物品販売に出向いています



全商品を試食してみました。
品質も味も保障します。



初めて乗員原告だけで販売
一日航乗員組合の大会で—

署名と共に届いた暖かいお手紙

現在、3月29日（パイロット）、30日（客室乗務員）の判決に向けて、公正な判決を求める署名へのご協力を呼びかけていますが、署名と共に暖かなメッセージが届けられましたので紹介します。

早速ですが、署名を同封します。

妻は認知症で文字が書けず、私はひどい帯状疱疹で、残念ながら一名しか署名できません。昨年9月26日から9月30日まで女満別空港～羽田乗継～南紀白浜往復で、妻とかねてから希望していた南紀旅行をしてきました。

今、要介護3の妻は、この旅行が楽しかったといつも話します。

この旅行ではJALを利用させていただきました。空港では受付に事情を話しましたところ、きちんと申し送りしていただき、トイレなどで手足の自由が全くきかない妻のことが心配でしたけれども、乗務員の皆様の暖かい気配りで終始楽しく旅ができました。

新聞に解雇の記事を見た時、思わず涙が出てしまいました。何という非人道的、非人間的な所業であることか。

妻の手をやさしく引いてくれた方、それらを思い出すたび、この解雇の余りにも無慈悲を感じずにはいられません。

北海道の果てに住んでいる72才と68才の夫婦が気の利いたことはできませんが、皆様の闘いの成功を心からお祈りしております。